



吸魂鬼
式 貴士
集英社

(8/25刊・¥850)

未来に集められたSF作家たち「SF作家倶楽部」、突然、知人が、全く見知らぬ他人とすり替わる「吸魂鬼」、地球侵略に訪れた宇宙人の手紙「エイリアン・レター」等、七編が収められている。

著者には悪いけれど、どうも昔からグロな作品は好きになれなかった。グロテスクさは、往々にして、単なる下品さにつながる。それも、たまに読む分にはいいのだが、まとめてとなると辟易する。だから、その手の話の多い本は、敬遠ぎみに読むわけだ。——しかし、本書には、意外なほど品格があった。ちよつと作品に、先入観がありすぎたようだ。昔風のミステリ系作家が書いているような雰囲気があった(著者の別名が、間羊太郎なのだから、当たり前か)。考えてみると、現代SFにはめずらしい部類に入る。特に新しいアイデアもなく、地味ではあるものの、安心感を持って読めるのだ。

本書で四冊目、作風も意識的に変えている著者には、的外れの言い方かもしれないが、こういったグロテスクさ(現代風)の中に、落ち着き(昔風)のある小説を、これから書きつづけてもらいたいと思う。

(俊)